

裁判員経験者からの手紙

平成21年5月21日のスタートから10年を迎える『裁判員制度』について、平成30年12月末までに裁判員・補充裁判員に選ばれた方は、88,987人！
裁判員経験者の方から裁判所に届いたお手紙をご紹介します。

先日裁判員裁判に参加した〇〇と申します。アンケートでは書ききれなかった感想をお伝えしたく、お便り致しました。

これまで事件というものは、どこか遠い世界で起きていることのように感じていました。しかし実際は被害者も被告人も、私と同じように日常を生きてきた人間でした。自分がいつどの立場になってもおかしくはないと突きつけられた気がします。事件については多くを考えさせられました。

今回、裁判官という職業の方たちに初めてお会いし、イメージが一変しました。特権階級で、私とは全く違う人種だと思っていましたが、同じように食べ、笑う、生身の人間だと気づきました。素人丸出しの質問をした際にも、わかりやすく丁寧に教えてくださり、とてもいい雰囲気でした。話し合えることができました。もし裁判員制度が、一般人に裁判を身近に感じてもらうという意味だけでなく、それまでの凝り固まった裁判を活性化させるという側面もあったのならば、素人冥利に尽きます。

また接点のなかった生活、職業、年齢の裁判員の方たちと出会えたことも得難い経験でした。全員で納得するまで話し合った時間は、私の世界観を広げてくれました。もう揃ってお会いする機会がないのが不思議でなりません。短い間でしたが、あの評議室での景色を思い出すと、たまらなく懐かしい気持ちになります。

裁判員裁判を通して、裁判とは大変面白く興味深いものだとなりました。今は裁判官が学校に裁判を教えに行く機会があるとのこと、大変素晴らしいことだと思います。証拠を見聞きし、疑問や考えを抱き、発言すること。かといって自分の意見に固執せず、他人の考えに耳を傾け、時には自分の考えを手放すこと。私が裁判で経験したこれらのことは、人として身に付けたい素養でもあります。若い頃に裁判を身近に体験できた世代は、私世代よりも器の大きい大人になるかもしれません。



最後に、この制度に携わっている皆様にお礼を申し上げます。もしまた候補者の呼出状が届いたら、喜んで参加させていただこうと思います。